

《月報》
平成 24年 2月
(第5 ~8週)発行年月日:平成24年(2012年)3月27日
発 行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

1)全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 24年		平成 23年 ^{*1}				
		1月		2月				1月		2月				
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県	全国	
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	1							
	結核	21	1,518	19	2,125	337	31,467							
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0							
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0							
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0							
三類	コレラ	0	1	0	0	0	12							
	細菌性赤痢	0	12	0	14	5	299							
	腸管出血性大腸菌感染症	0	51	0	41	71	3,938							
	腸チフス	0	0	0	4	0	21							
	パラチフス	0	1	0	2	0	23							
四類	E型肝炎	0	12	0	14	0	61							
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0							
	A型肝炎	0	7	0	9	0	176							
	エキノコックス症	0	1	0	0	0	18							
	黄熱	0	0	0	0	0	0							
	オウム病	0	0	0	1	0	13							
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0							
	回帰熱	0	0	0	0	0	0							
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0							
	Q熱	0	0	0	0	0	1							
	狂犬病	0	0	0	0	0	0							
	コクシジョイディス症	0	0	0	0	0	2							
	サル痘	0	0	0	0	0	0							
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0							
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0							
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0							
	炭疽	0	0	0	0	0	0							
	チクングニア熱 ^(*)	0	0	0	0	0	10							
	つつが虫病	1	46	0	12	1	461							
	デング熱	0	12	0	8	1	112							
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0							
(*): 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。-: 未集計														
*1 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、H24.3現在)														
動物の 感染症														
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類														
細菌性赤痢のサル														
エキノコックス症の犬														

滋賀県における全数報告感染症の概要
(2月)

<結核> 19名

性別: 男性 13名、女性 6名

類型: 患者 13名

無症状病原体保有者 6名

病型: 肺結核 6名

その他の結核 7名

無症状病原体保有者 6名

<レジオネラ症> 男性 92歳

推定感染経路は不明で、推定感染
地域は日本国内です。

<クロイツフェルト・ヤコブ病>

女性 80歳

推定感染経路および推定感染地域
ともに不明です。

<劇症型溶血性レンサ球菌感染症>

男性 77歳

推定感染経路は不明で、推定感染
地域は日本国内です。

<風しん> 男性 31歳

推定感染経路は不明で、推定感染
地域は日本国内です。また、ワクチン
の接種歴は2回とも不明です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数／定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53ヵ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

2月の概要

<インフルエンザ>

先月よりさらに増加し、先月の約1.5倍となっていました。第6週(2/6～2/12)の定点当たり患者数は39.92でピークとなり、その後、減少傾向を示しました。第8週(2/20～2/26)には、長浜保健所管内の定点当たり患者数が警報終息基準値未満(10.00)となりましたが、第3週(1/16～1/22)に発令されたインフルエンザ警報は、第8週(2/20～2/26)まで県内全域に引き続き発令されていました。

<小児科定点疾患>

下記グラフ(疾患別増加率)に示すとおり、先月より増加した疾患はA群溶レン菌咽頭炎のみで、他の疾患は減少または横ばいとなっていました。また、各疾患の週別発生状況は、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照。

A群溶レン菌咽頭炎——草津、長浜および高島保健所管内からの報告が多くなっていました。特に、高島保健所管内では、第5週(1/30～2/5)および第8週に警報発生基準値(警報開始基準値8.00、警報終息基準値4.00)を超えていました。

水痘——東近江保健所管内からの報告がやや多くなっており、第7週(2/13～2/19)には、注意報発生基準値(4.00)を超えていました。

手足口病——草津および高島保健所管内からの報告が多くなっていました。特に、高島保健所管内では、第4～6週(1/23～2/12)に警報発生基準値(警報開始基準値5.00、警報終息基準値2.00)を超えていましたが、第7週(2/13～2/19)に警報終息基準値未満となりました。

流行性耳下腺炎——東近江保健所管内からの報告がやや多くなっていました。
(おたふくかぜ)

<眼科定点疾患><基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より減少し、甲賀および高島保健所管内からの報告のみでした。急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。

基幹定点疾患である細菌性髄膜炎は東近江保健所管内からの報告でした。マイコプラズマ肺炎は先月より増加し、大津市、東近江および長浜保健所管内から報告がありました。また、無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<インフルエンザ(入院)>

第5～8週に、インフルエンザ入院患者 64名の届出がありました。性別では、男性 29名、女性 35名でした。

年齢別では、1歳未満 6名、1～4歳 18名、5～9歳 16名、10～14歳 1名、30～39歳 2名、60～69歳 1名、70～

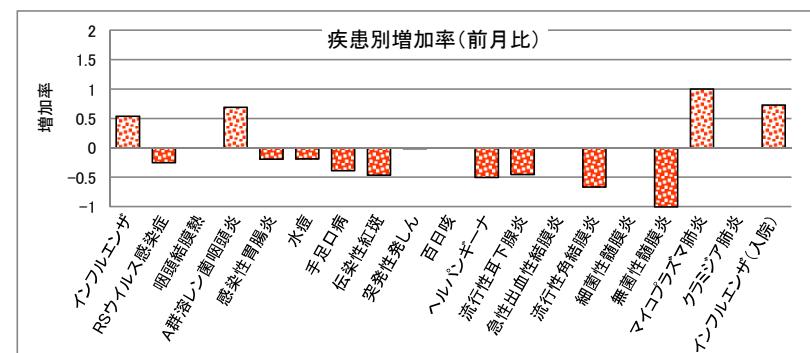
79歳 9名および80歳以上 11名でした。

また、全国における第5～8週の入院患者数は4,929名でした。

<疑似症定点からの報告>

報告はありませんでした。

定点把握対象疾患における
疾患別増加率
(平成24年1月との比較)

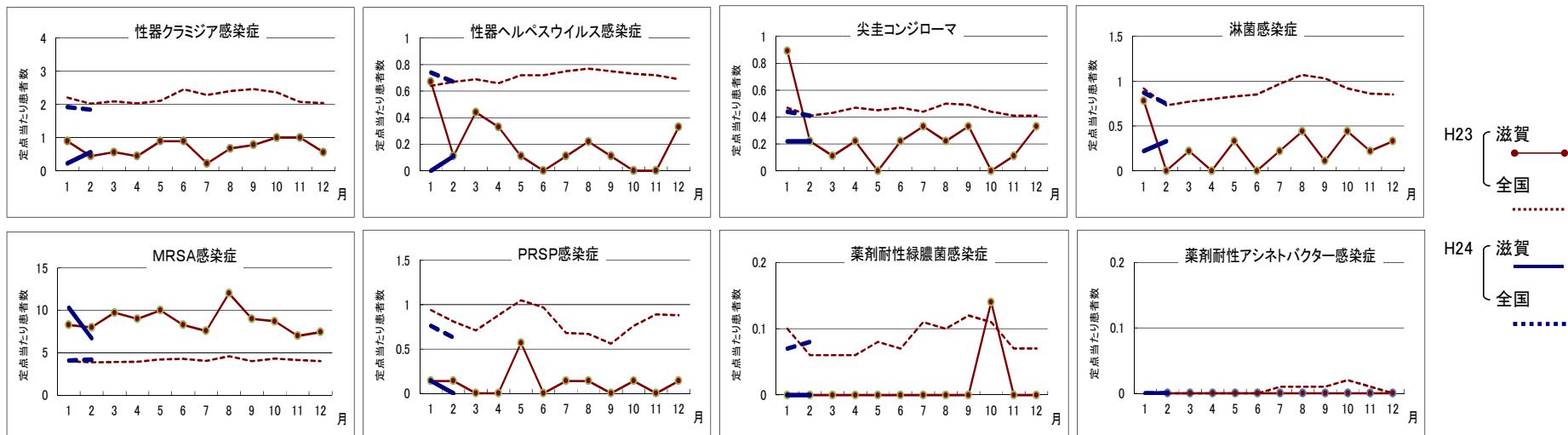


<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜炎 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成24年2月)

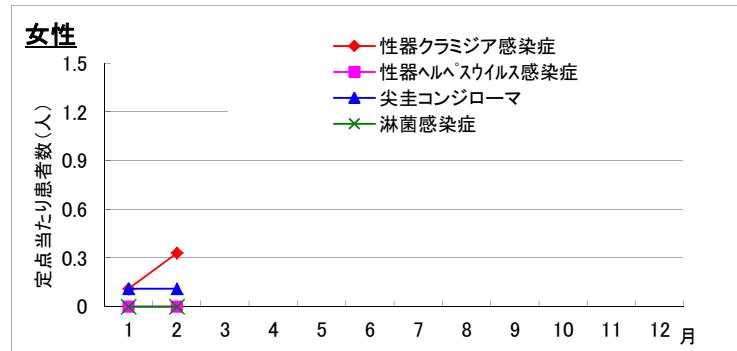
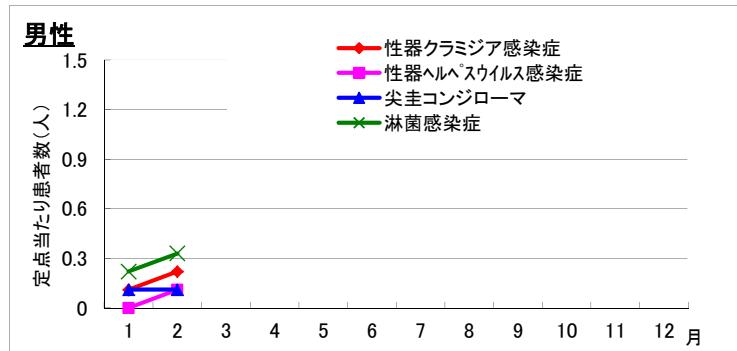
疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	2	5											7
	定点当たり患者数	0.22	0.56											0.78
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	0	1											1
	定点当たり患者数	0	0.11											0
尖圭コンジローマ	報告数	2	2											4
	定点当たり患者数	0.22	0.22											0.44
淋菌感染症	報告数	2	3											5
	定点当たり患者数	0.22	0.33											0.55
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	72	47											119
	定点当たり患者数	10.29	6.71											17.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	0											1
	定点当たり患者数	0.14	0											0.14
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0											0
	定点当たり患者数	0	0											0
薬剤耐性 アシнетバクター感染症	報告数	0	0											0
	定点当たり患者数	0	0											0



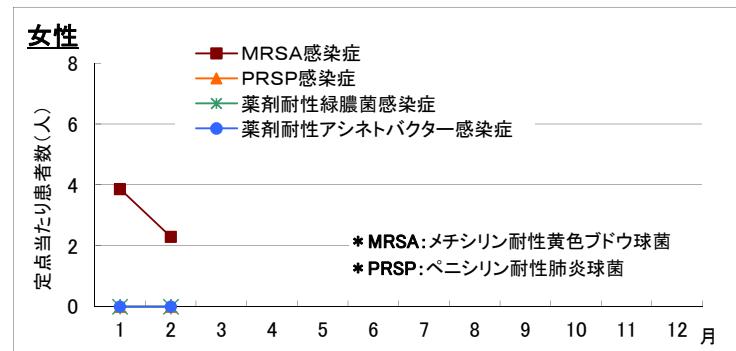
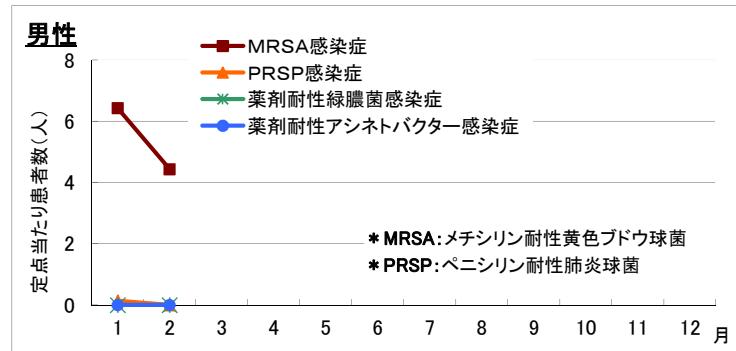
滋賀県における発生状況は上記に示すとおりです。先月と比較すると、増加した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症および淋菌感染症で、減少した疾患はMRSA感染症およびPRSP感染症です。尖圭コンジローマは横ばいです。また、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシнетバクター感染症の報告はありませんでした。

MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H24.2)



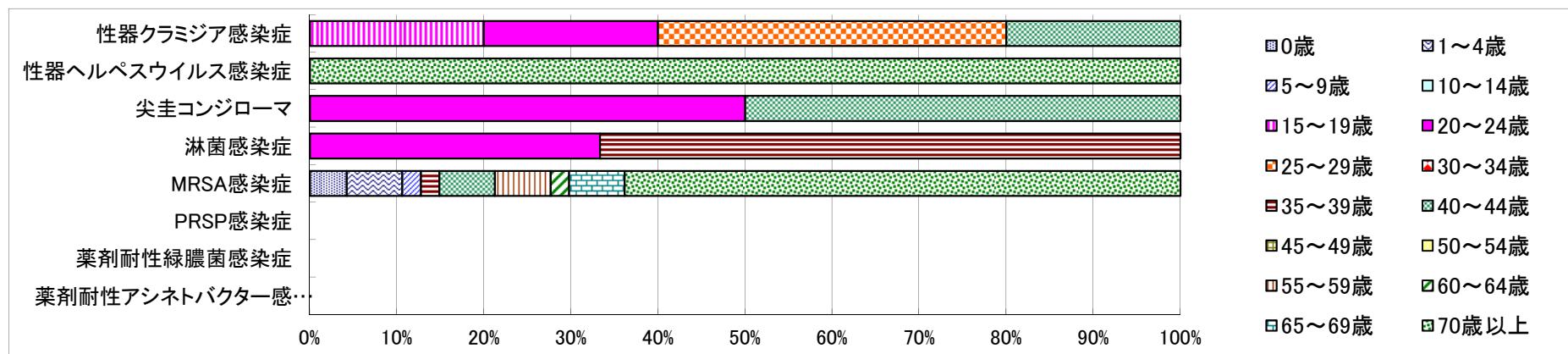
基幹定点における疾患別発生状況 (H24.2)



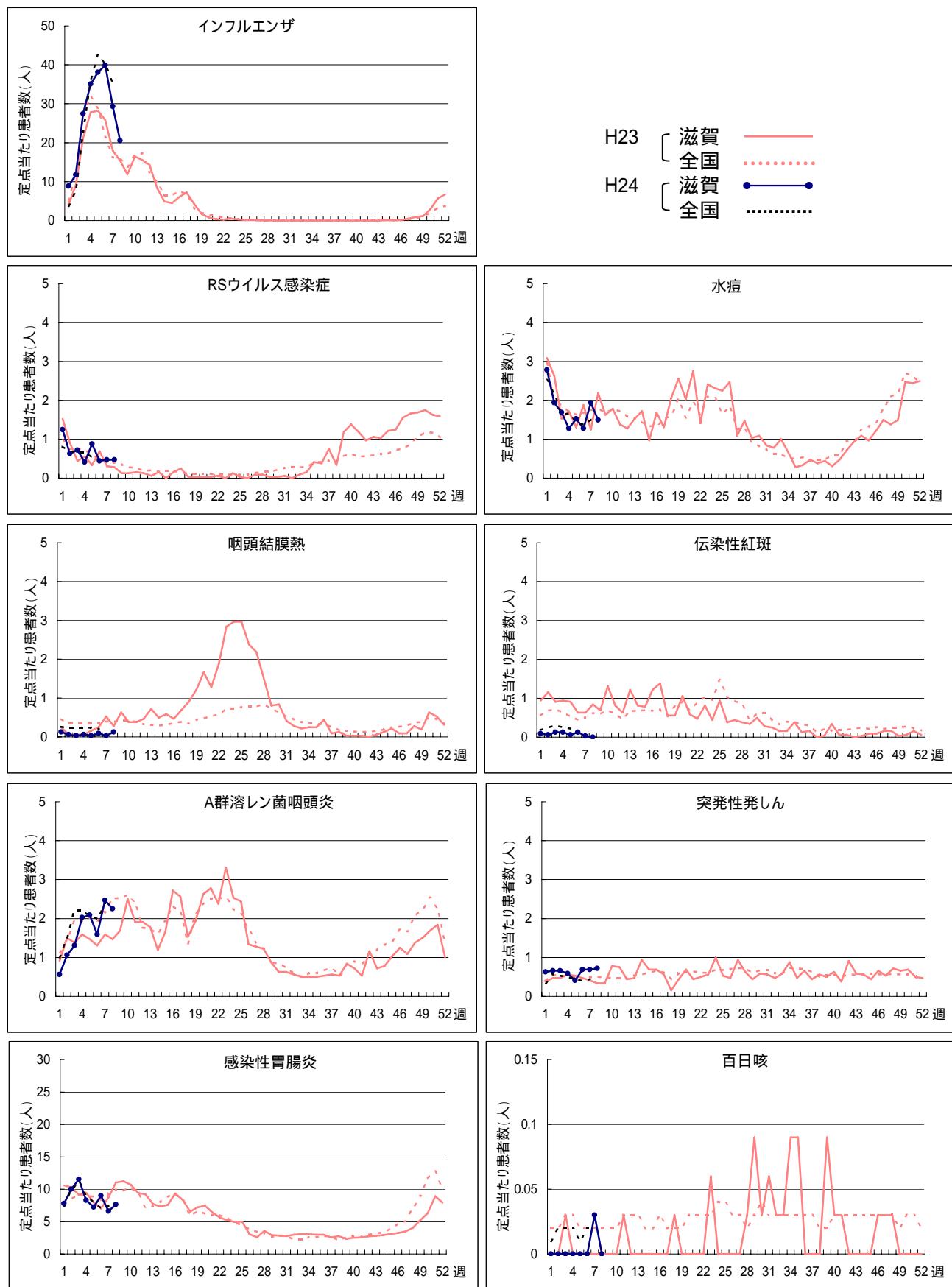
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。先月と比較すると、性器クラミジア感染症では男女ともに増加していました。また、MRSA感染症では男女ともに減少していました。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。性感染症定点疾患では、20～24歳、および25～29歳からの報がやや多くなっていました。また、性器クラミジア感染症では、15～19歳からの報告がありました。

疾患別・年齢別発生状況(H24.2)



疾病別定点当たり患者数(平成24年第8週、H24.1.2～H24.2.26)



戻る

疾病別定点当たり患者数

(平成24年第8週、H24.1.2～H24.2.26)

H23 滋賀 全国
H24 滋賀 全国

